

令和7年度水俣病犠牲者慰霊式「水俣市長式辞」

水俣病の公式確認の日から、本日で69年目を迎えました。

この間に水俣病により亡くなられたすべての御霊（みたま）が安らかならんことをお祈りし、謹んで哀悼のまことを捧げます。

本日、水俣病犠牲者慰霊式を挙行するにあたり、御遺族をはじめ、水俣病患者の皆様、被害者団体の皆様、浅尾環境大臣、木村熊本県知事、国会議員並びに県議会議員の皆様、近隣自治体の皆様、また多くの市民の方々の御臨席を賜り、祈りを捧げていただきますことに、心から厚く御礼を申し上げます。

水俣病により被害にあわれた方々と御遺族の苦しみ、悲しみはこれ程の長いときを経ても変わることはありません。その思いに多くの方々と寄り添っていくための取組みとして、今年度の慰霊式では、次の世代を担う子どもたちから募集した美しい水俣の海の象徴である「うたせ舟」と「祈り」をテーマにしたイラストを掲載したプレートを慰霊の碑に奉納することとしております。

水俣病で犠牲になられたすべての方たちの鎮魂と同じ過ちを二度と起こさないとの想いを込めるとともに、「もやい直し」が進むことを切に望みます。

本市は、これまで、市民の皆様をはじめ、議会、行政が一体となって、国や県の御支援をいただきながら、環境に配慮した様々な取組みを実施してきました。環境モデル都市の理念を継承し、発展させた「SDGs未来都市」に選定されるなど、環境のまちとして高く評価されるようになりました。

しかしながら、本市では、全国及び県平均を大きく上回る速さで高齢化が進み、一方で出生数は減り続け、人口減少に歯止めがかからない状態です。こうした状況下ではありますが、水俣病により被害にあわれた方々と御遺族の苦しみ、悲しみに寄り添い、

その教訓を発信し続けるためにも、持続可能な地域を作り上げていくことが私たちに課せられた大きな使命です。

地域の将来像として、水俣市が掲げる「みんなが幸せを感じ笑顔あふれる元気なまち 水俣」の実現に向け、引き続き、さまざまな施策を力強く推進してまいります。

終わりに、改めて、水俣病で犠牲となられたすべての生命に心から祈りを捧げ、式辞といたします。

令和7年5月1日

水俣市長 高岡 利治